

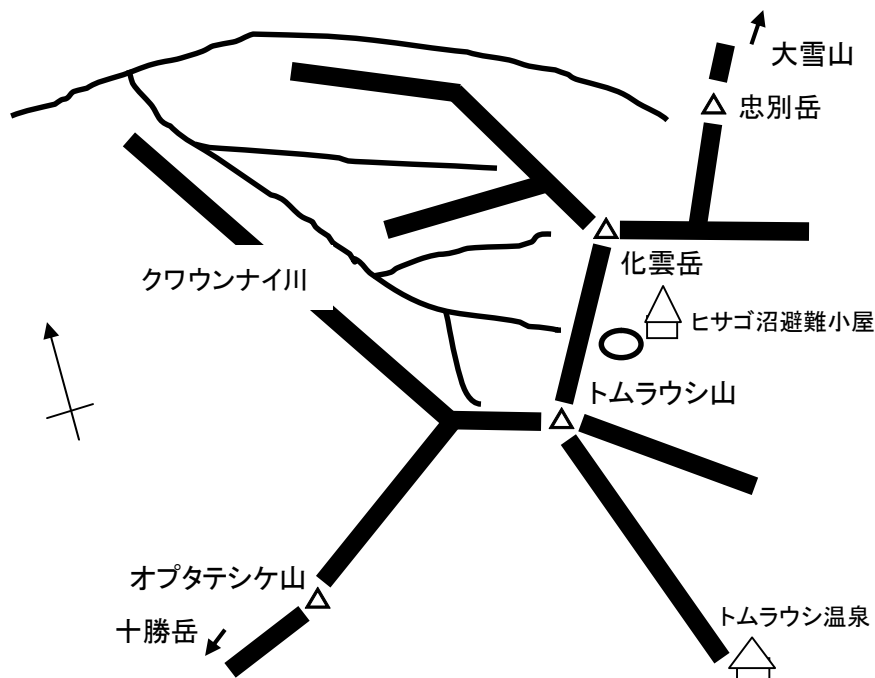
〔CSS 山行〕

クワウンナイ川からトムラウシ山

(食い散らかしてトムラウシ)

【日 程】 2012年9月13日(木)～9月19日(水)

【参加者】 隊長 秋田誠、熊避け鈴・報告 乾久子 (CSS/彷徨倶楽部)



【行 程】

- 9/13 (木) 関空 12:30 --- (空路) --- 新千歳空港 14:25 --- 天人峡清流橋駐車場 (泊) 19:30
9/14 (金) 泊地 6:00 --- ボンクワウンナイ川出合 (入渓点、標高 586m) 6:30 --- (ゴルジュ高巻き) --- 河原 (標高 630m) 10:40~11:00 --- 泊地 (標高 690m) 14:30
9/15 (土) 泊地 6:30 --- カウン沢出合 (標高 970m) 11:30 --- 魚止ノ滝 (標高 1,130m) 13:00 --- 滝ノ瀬十三丁出口の滝上 14:15 --- ハング滝 15:00 --- 泊地 (標高 1,320m) 15:30
9/16 (日) 泊地 6:30 --- 奥ノ二俣 (標高 1,360m) 7:00 --- 縦走路 (標高 1,830m) 12:00 --- ヒサゴ沼避難小屋 (泊) 14:50
9/17 (月) ヒサゴ沼避難小屋 8:30 --- 天沼 10:30 --- 北沼分岐 12:30 --- トムラウシ頂上 13:30~13:45 --- コマドリ沢分岐 (泊) 16:30
9/18 (火) 泊地 6:30 --- トムラウシ温泉 11:30
9/19 (水) トムラウシ温泉 10:00 --- (国民宿舎「東大雪荘」送迎バス) --- 新得駅 11:00~13:35 --- 新千歳空港 19:10 --- (空路) --- 神戸空港 21:00

【食糧計画】

北海道と云えば食の大地である。美味しいモンがいっぱいあるんだろうなあ。しかし初めての北海道の沢。しかも長大なクワウンナイ川だ。エライこっちゃと緊張していたが、隊長

の食糧計画にびっくり。朝食はフレンチ・トースト、ベーコン、オムレツ、コーヒー、そしてデザートにはグレープフルーツ。アメリカンスタイルの朝食である。夕食はスープ、サラダ、パスタ添えステーキ。ディナーと言うしかない豪華重量級である。ボッカは隊長、パシリは熊よけ鈴以外に料理も担当するはめに。極小登山隊だから仕方ないと諦め、旭川のイオンで買い出しした。肉、ベーコン、ウインナー、餃子、グレープフルーツ、もやし、厚揚げ etc.そして卵 10 個、涙目で生卵運搬のリスクを訴えるも却下。隊長のザックにはコッヘルと中華鍋、釣竿まで鎮座している。晩酌のあてはオシヨロコマらしい。こうして山行はスタートした。

【記 録】

9/14 (金) 薄曇り

地形図には載っていない右岸沿いの踏跡を 20 分辿り、ポンクワウンナイ川出合から入渓。思ったより水は冷たくないが、水量が多くやたら白波が立っており、この先の渡渉を思うと気が滅入る。広々とした河原をしばらく進むと川幅が狭まりゴルジュ出現。当地で云うところの「函」である。右岸沿いに水線突破を試みるも深い淵に阻まれ敗退。函の入口まで戻り、改めて左岸水際のホールドを拾うが重荷では突破が際どい壁に出くわす。止む無く足元の覚束ない急峻な斜面を高巻く。「ウンリヤー」と奇声をあげつつ、笹と木の根を頼りに藪を漕ぐ。時折行く手を阻む巨木の乗越しに消耗した。標高 800m の緩傾斜帯をトラバースし、500m 上流の河原に降り立った。持参した 20m ロープが大活躍であった。その後は数知れない渡渉を繰り返して、カウン沢出合やや下流の左岸樹林にテントを張った。ビールで乾杯、ステーキをメインとする豪華重量級の夕食後、焚火を囲んで焼酎タイム。19:00 就寝。

9/15 (土) 晴れ時々曇り

朝から焼き肉を食し、気合いを入れて出発。カウン沢出合から間もなく魚止ノ滝が眼前に。想像していたよりずっと立派で、溪幅いっぱい豊かに水を落している。左岸の巻道から滝の上に立つと、いよいよ本山行のハイライト「滝ノ瀬十三丁」の幕が切って落とされた。4km にも及ぶ滑滝の饗宴。あまりの素晴らしさにしばし呆然自失。初めてこの景観を眼にしたひとの驚きは如何ばかりだったろう。岩盤を滑らかにほとぼしる流れ。一見穏やかに見えるが油断すると所々に潜む深みに足をすくわれそうになる。水量豊富な多段の大滝を左岸に見送り、更に 30 分ほど登ると 8m 滝となり、1 時間に及ぶ長大な滑のフィナーレを告げた。やがて谷が屈曲し兩岸に岩の鎧をまとったハング状の滝が行く手を阻む。右岸のガレを登り草付を 20m 程トラバースすると 8m 程の被り気味の岩に固定ロープが下がっていた。岩場の上の安定した巻道を辿り、沢に降り立つ手前で格好の泊まり場を得た。夕食はペンのペペロンチーノ、オムレツ、焼き厚揚げ。先行パーティーが残してくれた薪を有難く使わせて頂く。

9/16 (月) 曇り一時雨

奥の二俣から中間尾根を高巻くも、やがて踏跡は消えチシマザサの藪漕ぎとなった。沢に戻るとようやく水量は減り、源頭近しの予感がする。バテバテで熊鈴代わりの軽口もたたけない。やがて神々の庭と呼ばれる草原に出た。霧は深く、この世の果てを彷徨っているかのようである。累々と重なる巨岩を縫うような踏跡を見失わぬよう、雨で濡れた岩から足を踏み外さぬよう、黙々と縦走路を目指した。長い長い登りだった！ようやく稜線を南北に走る縦走路に合流した。視界の利かない霧雨の中でのルートファインディングは難しく、時折 GPS で位置確認をしないと迷いそうであった。雨の中、夕刻も迫っているのでトムラウシを越えて南沼までの予定を変更、ヒサゴ沼避難小屋を目指した。雪溪の風は冷たく、やっとの思いで避難小屋の戸を開くとそこには 20 名近い登山者が憩っていた。沼の水を汲んでコーヒーを沸かした。飴や大福の甘味が疲労と空腹に支配された身体に心地よく沁み込んでいく。私は

いつの間にか寝入ってしまい、目を覚ますとすでに小屋は眠りの精が支配していた。陸揚げされたマグロと化した私の傍らで、隊長は焼酎の湯割りを頼りに孤独な時を過ごしたらしい。

9/17 (月) 曇り時々雨

晴れていれば、トムラウシ山経由でのトムラウシ温泉への下山は一日コースだが、今日は足が悪いので無理をせずコマドリ沢出合を目指す。オムレツ、グレープフルーツ、カリカリベーコンの朝食をゆっくり楽しむ。縦走路へ出て北沼分岐から 25 分で頂上に到着。風が強く寒かったので、証拠写真を撮って早々に下山。夕刻近くコマドリ沢出合に着き、狭い登山道の上に無理矢理テントを張った。残っているウインナーと柿のタネと焼酎で、晩御飯。ヒグマの通り道だったらどうしようといつつもいつの間にか爆睡。

9/18 (火) 曇りのち晴れ

今回一番の上天気になった。遥かにくっきりと聳えるトムラウシのツインピークを振り返りながら、ドロの沼と化した登山道を下った。カムイ天上を過ぎると、地面は乾きようやく快適な下山道となり、昼前にトムラウシ温泉に辿り着いた。新蕎麦とジンギスカンを肴に生ビールが喉に沁みた。

9/19 (水)

新得駅前で新蕎麦（新得は蕎麦の産地らしい）、電車の中でさんまの刺身、空港でタコ、ホッケ、ラムステーキと食べ続け、体重 1 kg 増。



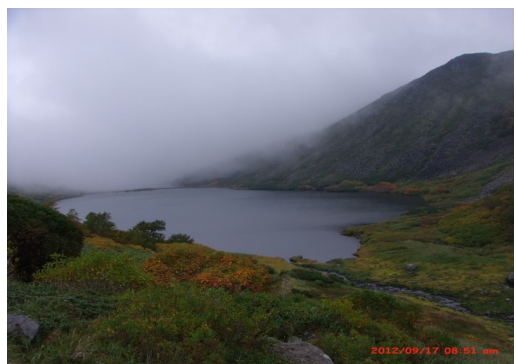
アメリカンスタイルの朝食



魚止ノ滝



滝ノ瀬十三丁を渡る



霧に佇むヒサゴ沼

【感想】

秋山の静寂に身を置きたくて北海道の山を目指した。同行者、地図読み、食糧等全ての大切さを実感した山行であった。沢登りは「自由」を満喫させてくれるアクティビティである。ヒグマやエキノコックスは厄介だが、北海道の山にはそれでもなお登りたくなる不思議な魅力がある。来年もまた訪れたいと思った。By パシリ兼熊よけ鈴（乾久子）